

南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）の構築について

【発表者】

文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 課長補佐 中出 雅大

【概要】

南海トラフ周辺の海域では、今後 30 年以内に M8～9 クラスの地震が 70%～80%の確率で発生すると想定されており、地震が発生すれば、208 兆円の経済的被害、死者・行方不明者 23 万人と想定されている。（※地震発生域、季節、時間についてそれぞれ被害が最大になると仮定した場合【「南海トラフ地震防災対策推進基本計画フォローアップ結果」（内閣府）より引用】）

国土強靱化のため、南海トラフ地震の想定震源域のうち、まだ観測網を設置していない海域（高知県沖～日向灘）に、ケーブル式海底地震・津波観測システムを構築することが重要であり、文部科学省では平成 31 年度予算及び平成 30 年度二次補正予算において南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）構築のための経費を計上した。

N-net では、地震計、水圧計等を組み込んだマルチセンサーを備えたリアルタイム観測可能な高密度海域ネットワークシステムを整備する予定であり、リアルタイム観測により、防災面のみならず、海域を震源とする地震現象などの研究を推進する。

